



本校卒業生の岡先生「教育実習」奮闘中！

- 1 実習生 岡 李（おかすもも）先生
本校を2019年3月の卒業した岡さんが、教員免許に係る単位取得のため3週間の教育実習をしています。
- 2 期 間 令和3年6月28日（月）～7月16日（金）
- 3 教 科 音楽（音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽史と鑑賞、音楽表現）
- 4 指 導 教科指導：中野拓也教諭、HR指導：川下慈博教諭（3A担任）
- 5 研究授業 令和3年7月15日（木）3校時(10:45～11:35)、音楽室、1年必修「音楽Ⅰ」2単位
大学から指導教官が来校し参観します。
★町内の教育関係者で参観希望があれば、本校教頭まで問い合わせして下さい。



↑ 3年A組で、HR（ホームルーム）の指導をしている。（画像中の右は、担任の川下教諭）

《教員養成について》

北海道教育委員会は、北海道教育大学と連携して、「高校生を対象とした教員養成セミナー」及び「インターンシップ」を実施しています。その背景には以下のような状況があります。

教員を目指す生徒には活用してほしいと思います。

北海道では、教員の大量退職期を迎え、新規採用者数が増加傾向にある中、教員志願者数が減少傾向にあるなど、様々な分野で活躍できる質の高い人材の確保が困難な状況になってきており、これまで以上に教育に対する高い意欲と指導力を有する人材の育成が求められている。

こうした中、教員として相応しい人材を確保するためには、高校生などの早い段階からの働きかけが必要であり、教員を目指す高校生が教育活動の楽しさなどを体験することができるセミナーを、教員養成大学と連携して開催することにより、教員を目指す高校生の意識の高揚を図り、明確な目的をもって教員養成大学を志望できるようにすることを目的に実施する。



上：授業開始直後に、本授業の内容・流れ・注意事項等を説明している。
左下：課題曲「荒城の月」について、岡先生が歌って曲調を伝えている。
右下：岡先生の伴奏で生徒が歌っている。
コロナ対策として、唱歌時はマスクとフェイスガードをしている。

《音楽Ⅰ》

この授業で扱っていた単元（課題の曲）は「荒城の月」作詞：土井晩翠、作曲：滝廉太郎でした。
武士の時代が終わり、国民による新しい社会になるはずであった明治元年、幕府側に入った会津班は、鶴ヶ城を根城に官軍と戦っていた。年がまだ16、17の子供たちで編成された白虎隊も、大人たちに加わって勇敢に戦った。しかし、近代兵器を多く持つ官軍に包囲され、「もうこれまでだ。」と悟った少年たちは飯盛山に登り、燃えさかる鶴ヶ城を眼下に見ながら喉を突いて自害する。
そんな歴史を刻みながらも明治7年に鶴ヶ城は取り壊される。風や雨にさらされ、苔がびっしりとはりめぐらされた廃墟に、作詞者の土井晩翠が唾然と立ち尽くしたのは、鶴ヶ城が悲劇的な落城を迎えてからわずか十年後のことだった。晩翠は、母校仙台二高の修学旅行で鶴ヶ城を訪れた。荒れ果てた城跡から受けた感銘と、故郷仙台の青葉城跡のイメージを合わせ、この詩を作り上げた。作曲者の滝廉太郎もまた、音楽家への道を決意した地である大分県竹田市の岡城跡に強い思いを抱いていた。自らも「古城」という詩を書き、曲を付けようと考えていたが、晩翠の「荒城の月」と出会い、男性的な力強い詩に心打たれ、この曲が生まれた。

（参考：「日本のうたこころの歌第4号『荒城の月』」（株）デアゴスティーニ・ジャパン、『日本の詩情 滝廉太郎』音楽之友社）

